

12月中旬、長野市中央安樂院で執り行われた土屋次雄さんの葬儀に参列する。オリンピック当時、白馬村はオリンピック時の盛り上がりを対象とした寄附

フリー便風 (現場)からの

宮田守男

(216)

の募集を行わない方針を示し、民間主体で、白馬を支援いたげるスポンサーを対象にマーケティングを行う白馬村実行委員会を立ち上げた。最終的には、3年間の歳入ベスで約12億の事業規模に。この業務展開をするため、事務局には大勢のスタッフが全国から集まつた。

当時土屋さんは、長野県内大手広告代理店の常務。その立場で献身的に白馬をサポートしてくれた。日本の大手広告代理店の博報堂やアサツーを始め、小さな自治体の担当課長クラスが会う事さえできない多くの企業の

トップとの交渉ステージを戦略的に作り出してくれた。ここ数年、67歳の若さでの逝去、白馬の為に日夜をいとわず献身的に対応した事が起因かと心が痛んでしまった。しかし白馬

時代、パラリンピックへの企業の関心は低く、組織委員会でさえマーケティングの可能性には期待していなかった。テスト大会会場での土屋さんが仕組んだ携帯大手のドコモの支援アント。トン汁

きたこともあり本番の大会も大いに盛り上がった。この戦略での取り組み、以後のパラリンピックにも引き継がれているが、土屋さんの成果だと知る人は限られている。

広告代理店は影の仕事、と言いつていい。それほどマーケティングの世界は、異次元の分野で、特定に秘密裏に交渉する分野だ。



祭壇でほほ笑む土屋さんを囲み60基を超える生花、生前の活躍の広さを改めて気付かせてくれる

地域に支援や貢献した人の事を忘れず 語り継ぐ大切さについて考えてみませんか

関係者で土屋さんを知る人は少ない。それほどマーケティングの世界は、異次元の分野で、特定に秘密裏に交渉する分野だ。忘れてはいけない事が2つある。パラリンピックは、選手ゼッケンに企業名が露出で

サービスやチーズの振舞。ドコモスタッフ活動の話題は、多くの企業関係者の関心事となつた。オリンピックは、企業露出が厳しく規制されたが、パラリンピックは、選手ゼッケンに企業名が露出で

役員とボランティアの交流を始め、大北地域の文化発信の一大拠点として地域と世界を強く結びつけた。ステージが必要との土屋さん(NPO法人信州地域のアドバイスが成しえた舞台裏だ。成功の影白馬村森上)



祭壇でほほ笑む土屋さんを囲み60基を超える生花、生前の活躍の広さを改めて気付かせてくれる